



九州大学北京事務所

# メールマガジン

2008年10月号 (Vol.3 No.10)

## 目次

2008/10/30

### ○ トピックス

第四回東アジア農業資源環境フォーラム 九州大学にて開催  
中国の学術交流訪問団 九州大学の水田理事、今泉理事を表敬訪問  
中国の学生交流訪問団が九州大学を訪問  
吉林大学における留学説明会 開催  
東北師範大学・中国赴日本国留学予備学校における留学説明会 開催

### ○ 九大人

北京化工大学教授 江波

### ○ 中日最前線

### ○ 教育コラム



編集代表者:九州大学北京事務所長 九州大学中国同窓会事務局長 宋 敏  
発行:九州大学北京事務所 九州大学中国同窓会事務局  
住所:〒100086 北京市海淀区中関村南大街甲6号铸誠大厦B座2008室  
電話:+86-10-5158-1387 ファックス:+86-10-5158-1367  
メール:peiking\_office@yahoo.co.jp (日语)  
kyudai\_ob@kyushu-ucn.net, kyudai\_ob@126.com (中文)



## トピックス

1

### 第四回東アジア農業資源環境フォーラム 九州大学にて開催



2008年10月11日に、「東アジアにおける食料の安全性と農業環境資源リスク:技術開発と制度設計の展望」と題する第四回東アジア農業資源環境フォーラムが九州大学西新プラザにて開催されました。前三回の中国北京での開催に続きまして、今回のフォーラムは日本九州大学農学研究院農業資源環境リスク研究センター、中国農業科学院東アジア農業資源環境研究センター、中国人民大学農業・農村発展学院の共同主催で、九州大学アジア総合政策センター、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構九州沖縄農業研究センター、福岡県、全国農業協同組合連合会福岡県本部(JA全農ふくれん)、福岡県農業協同組合中央会の後援、及び日本財団法人新技術振興渡辺記念会の支援の下で、初めて日本で開催されたものです。フォーラムには中国農業部、中国農業科学院、中国人民大学、日本九州大学、日本九州沖縄農業研究センター、福岡県庁、日本農業協同組合連合会JAなどの関係者計120人余が参加しました。日中両国の参加者は「食料の安全性とリスク認知」、「食料の安全確保と貿易」、「食品加工における安全確保の現状と問題」の三つのサブテーマをめぐり、活発な意見交換とディスカッションを行いました。また、フォーラムには、日中の学生達もポスターセッションに参加し、各自の研究成果を発表しました。

業・農村発展学院の共同主催で、九州大学アジア総合政策センター、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構九州沖縄農業研究センター、福岡県、全国農業協同組合連合会福岡県本部(JA全農ふくれん)、福岡県農業協同組合中央会の後援、及び日本財団法人新技術振興渡辺記念会の支援の下で、初めて日本で開催されたものです。フォーラムには中国農業部、中国農業科学院、中国人民大学、日本九州大学、日本九州沖縄農業研究センター、福岡県庁、日本農業協同組合連合会JAなどの関係者計120人余が参加しました。日中両国の参加者は「食料の安全性とリスク認知」、「食料の安全確保と貿易」、「食品加工における安全確保の現状と問題」の三つのサブテーマをめぐり、活発な意見交換とディスカッションを行いました。また、フォーラムには、日中の学生達もポスターセッションに参加し、各自の研究成果を発表しました。



2

### 中国の学術交流訪問団 九州大学の水田理事、今泉理事を表敬訪問



10月15日、第四回東アジア農業資源環境フォーラムに出席する中国人民大学と中国農業科学院の代表者が九州大学本部で水田理事と今泉理事を表敬訪問しました。会談では、九州大学と中国人民大学及び中国農業科学院との間における交流実績や、これからの交流促進などについて幅広く意見交換を行いました。また、北京事務所の宋敏所長が九州大学北京事務所の仕事についても水田理事と今泉理事に報告しました。表敬訪問には、九州大学農学研究院国際交流委員会会長伊東正一教授、同研究院南石晃明教授、及び谷本滋部長を始めとする九州大学国際交流部の幹部と担当者が参加しました。





### トピックス

3

#### 中国の学生交流訪問団が九州大学を訪問

10月10日から18日にかけての9日間にわたって、中国人民大学農村・農業発展学院の学部学生と院生11名、中国農業科学院の院生2名をメンバーとする中国の大学生訪問団が九州大学を訪問し、学術交流、学生懇談及び日本農村見学を行いました。まず、10月10日に、農学研究院吉村院長の歓迎ご挨拶、留学生担当の中村先生による九大・農学部の紹介を行いました。10月11日に、学生訪問団の全員が「東アジアにおける食料の安全性と農業環境資源リスク:技術開発と制度設計の展望」シンポジウムに参加し、ポスターセッションにて研究成果を発表し、日本の学生と、共通関心の課題についてディスカッションし、日中間における食の安全性やリスクに関する認識を深めました。

10月12日から14日にかけて、九大農学研究院の先生方のご案内で、中国の学生訪問団が福岡県農業試験場、JAあさくら、福岡県前原市農業を視察し、日本の農業科学研究機関、農業協同組合、食品生産企業、農産物直接販売・卸売市場、農業生産現場、農家などを考察し、日本の農業、農村の現状、及び農業行政、組合、農家などによる新しい農業環境改善への取り組みなどについて現地調査を行いました。15日に中国の学生交流訪問団が九州大学大学院生物環境科学府の院生との間における日中学生交流と懇親会を行い、日中学生間の親睦を深めることができました。そして、16日から17にかけて、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構九州沖縄農業研究センター、木之内農園視察を訪問した後、阿蘇の温泉、火口を見学し、昔の日本家屋、食事も体験しました。今回の日本訪問は大変貴重な体験で実りの多い訪問でしたと、訪問団の学生達が異口同音で訪問の感想を述べています。



### トピックス

4

#### 吉林大学における留学説明会 開催

10月30日(木)午後、在中国日本大使館と日本学術振興会を主として、在中国の日本駐在機関や十数所大学からなっている日本名校代表団が長春市にある吉林大学の学部生、大学院生を対象とした合同留学説明会を開催しました。九州大学北京事務所李同帰副所長がこの説明会に参加しました。

今回の説明会には、学生や保護者300人余が参加しました。九州大学のブースの前は、大勢の学生や保護者が寄せて熱心に質問しました。吉林大学海外留学センターの朴金波教授も九大のブースに赴き、挨拶し、説明会についての意見交換も行いました。



5

#### 東北師範大学・中国赴日本国留学予備学校における留学説明会 開催

10月31日(金)午後、東北師範大学と中国赴日本留学予備学校で、計3機関、11所大学からなっている日本名校代表団の合同留学説明会が開催されました。日本大使館、日本学術振興会のほかに、北海道大学、東京大学、東京工業大学、京都大学、神戸大学、九州大学、創価大学、早稲田大学などが参加しました。九州大学システム情報科学研究所中西恒夫准教授、九州大学留学生センター大神智春准教授、九州大学国際交流部留学生課御幡友里子さん及び北京事務所李同帰副所長の一行が説明会に出席しました。

大勢の学生が九州大学のブースに寄せ、資料を請求したり、質問したりしました。北京事務所の李副所長が予備学校のOBとして、自らの留学経験や心得から学生たちの質問に回答しました。中西准教授、大神准教授及び御幡さんが九大の留学政策、研究環境などについて詳しく学生に説明しました。



■ 九 大 人 ■

江 波

☆☆☆☆☆  
北京化工大学教授  
博士指導教員

ゴムプラスチック機械研究所所長

足 跡

- ・1942年10月 生まれ
- ・1965年7月 北京化工大学を卒業
- ・1965年—1986年 北京化工大学で教鞭を執る
- ・1986年—1988年 九州大学工学部で訪問学者
- ・1988年—今 北京化工大学で教員を務める

インタビュー

1、九大を離れて20年になりましたね。九大について印象深いことは何でしょうか。

そうですね。九大で目で見えたハイレベルの研究分野や濃厚な学術雰囲気、謹厳な仕事ぶり及び調和がとれたチームワークのことは印象に深く残っています。それに、とりわけ忘れられないのは工学部加工機械学科の船津和守教授から親切な指導やいろいろな援助を頂いたことです。

2、九大での留学経験はあれからの仕事にどんな影響を与えましたか。

九大で留学したことは視野を広め、格差を感じ、そして高分子化合物成型加工分野の研究方向と主な目標を明確させました。その研究目標を実現するためにどんな物質条件と科学的な研究態度が必要かということも分かりました。そのような経験は改革開放初期に置かれていたわが学校に対して、関係する学科の建設と発展に有益な影響を与えました。

3、長年に渡って加工機械についての仕事をしてきましたが、科学研究に携えるにはどんな素質を備えるべきでしょうか。

真理を求め、実務に励み、学識を広め、新機軸を打ち出します。まずは、国家の発展に応じて、自分の研究方向を確定します。それから、名利に迷わず、寂しさに耐え、失敗も恐れず、根気よく続けることができ、そして時を移さず経験と教訓を総括します。そうしたら、必ず成功できます。

4、光陰矢の如しという諺がありますね。退職後の生活はどのように過ごしますでしょうか。

一個人のインテリとして、長期に渡って勉強と研究仕事はもう生活に欠かすことができない一部分になりました。健康でいる限り、勉強も研究も続けます。ただし、仕事内容の選択する余地があり、度合いも強くなります。興味を持つことをもっと学んで、好きなことをします。また、家族と一緒に過ごす時間を多く割きます。

5、先輩として日本に留学したい或は留学中の後輩に何か伝えたいことがありますか。

自分の青春を、貴重な留学するチャンスを大事にしてください。技能を身につけて、祖国を建設し、中日二国間の友誼のために微力を捧げるように頑張ってください。

真理を求め、実務に励み、  
学識を広め、新機軸を打ち出す。





中日最前線

最新動き

温家宝総理が麻生首相と会談

温家宝総理は24日、アジア欧州会議(ASEM)の出席のために北京を訪れている日本の麻生太郎首相と、人民大会堂で会談した。



当面の国際金融危機について、温家宝総理は「中日双方は、政策上の対話と協議を強化し、金融市場の安定を維持すべきだ。これは安定したアジアの金融システムにとって非常に重要である。両国は経済や技術面での協力を拡大し、自国や地域経済の成長を促さなければならない」と表明した。

これに対して麻生首相は、「日中両国は隣国であり、戦略的互惠関係を発展させなければならない。日本側は、中国側とのハイレベルの往来を保ち、二国間関係や地域間問題、国際問題について意見を交換し、国際金融や6カ国協議など、重要な問題について交流していきたい。日本側は日中経済ハイレベル対話を大いに重視しており、このメカニズムを絶えず改善させ、重点分野における両国協力の拡大を希望する。」と述べた。

北京に日本文化センター開設

胡錦濤国家主席の5月の訪日の際に両国政府が合意した文化センターの相互開設取り決めに基づき、日本文化センターが10日、北京に正式に開設された。

日本国際交流基金の両宮夏雄理事は開設式で、「文化センターの開設について政府間で正式に取り決めを結んだのは、日本政府にとって初めてのことで、画期的なことだ」と述べた。

文化部対外連絡局の于ホウ(くさかんむりに凡)局長補佐は次のように述べた。北京日本文化センターの開設は、中国の国民が日本を理解するための新しい窓口を提供するものだ。文化センターを相互に開設することは、両国の文化分野での交流と協力に恒久的なプラットフォームを提供する。

于局長補佐はまた、東京の中国文化センターも開設準備が進んでいると語った。

今年は中日青少年友好交流年にあたる。日本文化センターは講演会、展示会、音楽会、日本映画の上映などを通じて日本文化を紹介し、文化交流の強化をはかるという。



第十七期三中全会、農村の改革と発展で新戦略を採択

今月のキーワード

12日、北京で閉幕した中国共産党第十七期中央委員会第三回全体会議(三中全会)は、『農村の改革と発展を推進するいくつかの重要問題に関する中国共産党中央の決定』を採択し、農村の改革と発展に向け、新たな戦略的な政策を打ち出しました。

会議は、農村体制改革の重要な段階で成果を上げるよう努め、農村経済を一層開放、活性化させ、農村の発展に向けた外部環境を整えるよう強調しています。また、農村の基本的な運営制度を安定、完備させ、厳格で、適正化された農村の土地管理制度を健全化するとともに、近代的な農村金融制度を確立し、農村の民主的な管理制度を健全化しなければならないとしています。



会議はまた、改革と革新を大々的に推進し、農村の制度整備を強化し、近代的な農業を発展させ、農業の総合的な生産能力を高めること、農村の公共事業の発展を速め、農村社会の全面的な進歩を促すとしています。

中国の改革という大事業は30年前、農村からスタートしました。この30年来、中国は農村で家庭請負責任制を土台に、統合経営と分散経営併用した結合という基本的な経営制度を確立することで、農民の生産意欲を大幅に高めてきました。

日本のメディアは連日、今回の会議を大きく取り上げています。『読売新聞』や『朝日新聞』、『日本経済新聞』が中国の農村問題に注目し、三中全会は農業の大規模経営にプラスとなる土地請負経営権の自由な譲渡を間接的に承認したとしています。さらに、中国経済が外需主導型から内需主導側に転換できるかどうかは、農村改革の動向にかかっていると指摘しています。





## ■ 教育コラム ■

### 留学動態

#### 「90後」の新入生、4割が卒業後に留学希望

北京大学就職支援センターは26日、新入生を対象に行った進路希望調査の結果を発表した。90年代生まれ「90後」の新入生の希望進路で最も多かったのが、海外留学だった。

同センターは新入生の入学手続き日に27学部の新入生を対象にアンケートを実施。今年入学した学部生のうち、第一希望を専攻できなかった学生が10%いたものの、大部分は希望通りの学部に進んだ。

志望動機については、58.1%が自らの興味、16.9%が自らの特技、23%が就職を考えてだった。

卒業後の計画については、海外留学を考えている学生がそれを圧倒し、約41%を占めた。次に国内で大学院に進むという学生が23%、就職が17%、未定が17%で、創業を目指す学生は1%にとどまった。

### 中国教育

#### 改革開放30年来、青年の就職観に変化

■配属先指定に服従——計画経済体制の残留期間・1978—80年中期

78—80年代中期、計画経済体制の影響から、農村の青年は多くの農民と同様、自由に移動することはできなかった。都市の青年の間では、高等教育が依然として高度に集中された計画管理モデルとして存在し、就職については「統一管理」が実施され、国が包括的に仕事を分配した。この期間、青年の職業選択観は受動的、単一的だった。

■開放へ——「農民労働者ブーム」と都市インテリ青年の双方の選択・80年中期—90年中期

この期間で、青年の就職で最大の変化は、「経済的地位」が職業選択時に最も優先的に考慮する要因となり、長年にわたり支配してきた「社会的地位」と「政治的地位」を超えたことだ。

■職業の自主的選択——出世を求める多元化時代・90年代中後期—現在

農村の青年が就職するようになったのは90年代中期から。都市の青年もこの期間に「職業の自主的選択」、あるいは「起業」の道を歩むようになった。大学の募集枠が拡大され、大学卒業生数が年々増加する一方、政府機関のリストラ、国有企業の従業員削減と効率向上、一時帰休者の再就職など、就職問題が突出し、状況は非常に厳しくなった。

### 情報カレンダー

- 08.10.14 中国人留学生の帰国ブーム到来 08年は5万人突破も  
<http://j.peopledaily.com.cn/94447/94448/6514640.html>
- 08.10.20 日本への中国人留学生、累計90万人に  
<http://j.peopledaily.com.cn/94447/94448/6518069.html>
- 08.10.23 中国留学人員創業園連盟が成立  
<http://www.cscse.edu.cn/publish/portal0/tab40/info7034.htm>
- 08.10.28 日本の大学が中国国家公派研究生奨学金項目の留学生を募集するお知らせ  
<http://www.csc.edu.cn/Chuguo/2c9e6b2da52b4e79a5452c49bd14f7a2.shtml>
- 08.10.31 自費留学の仲介機構のリスト(08年第3回更新)  
<http://www.moe.gov.cn/edoas/website18/74/info15774.htm>

### ランキング



工学は材料工学科、機械工学科、エネルギー工学科、機械工学科、建築工学科、都市工学科、機械情報工学科、科学生命工学科、電子情報工学科、航空宇宙工学科、科学システム工学科、交通運輸、生命システム、農業システム、林業システムなどの21のモジュールからなっている。工学は中国の最大の学科となっている。

- 1位 清華大学
- 2位 浙江大学
- 3位 上海交通大学
- 4位 ハルビン工業大学
- 5位 天津大学
- 6位 華南科技大学
- 7位 西安交通大学
- 8位 北京航空航天大学
- 9位 西北工業大学
- 10位 大連理工大学

<http://edu.qq.com/a/20080227/000193.htm>

